

学修行動調査の目的は、①学生自身による学修行動・成果の振り返り、②寄せられた評価や意見をもとに、授業担当者が次年度以降の授業内容や授業方法の改善に取り組むこと、③授業環境の組織的な改善に結びつけること等です。

今年度の回答率は35.7%であり、昨年度の16.4%に比べ大きく上回りましたが、目標としておりました50%には届きませんでした。昨年度に比べ回答率が上回った理由の一つは、調査開始時期を従来よりも早めたことや、学生への調査協力依頼を繰り返し行ったことが挙げられます。したがって、次年度は今年度以上に回答率を上げるために、調査開始時期や調査の実施方法等について、さらに工夫を加えより効果的な対策を講じていきたいと考えております。

今回、本調査で得られた結果より抜粋した主な5項目について以下の通りまとめました。調査結果は関連する委員会をはじめ所管部局にフィードバックし、学生の実状把握に役立てるとともに、多様なニーズに応えられるよう学修環境や学生生活環境の改善に努めたいと思います。最後に、本調査に協力いただきました学生みなさんに厚くお礼申し上げます。

【本学調査と全国平均の比較】

1. 1週間の通学日数

本学は、原則として月曜日から金曜日までの週5日制を採用しており、各学部学科ともに通学日は4日以上で、学生が真面目に通学していることがわかりました。今後も、引き続き週内の偏りが少ない時間割作成を心掛け、学生が計画的に学修できる環境整備の重要性を改めて認識する結果となりました。

2. 1週間を通して大学で過ごす時間

大学で過ごす時間はこれまでと比べ横ばい状態との結果になりました。短大では、2学科ともに増加傾向という結果となりました。これからも、大学の図書館やラーニングコモンズの充実をはかるなど学修環境の整備に努め、大学で過ごす学生のニーズに応じていくことが求められていることがわかりました。

3. 授業への出席率

大学での授業への出席率は、9割以上という結果になりました。短大は、出席率が8割台という結果で、大学と比べ若干低いことが判明しました。この理由について現時点では定かではありませんが、今後その理由を明らかにしていく必要があることがわかりました。

4. 授業の予習や課題に取り組む時間

すべての学部学科で増加傾向にあるという結果となりました。このことから、継続的に学修に取り組むことの大切さがすべての学部学科で周知徹底されてきており、学修習慣を身に付ける指導が浸透しつつあることがわかりました。

5. 大学の授業以外での自主的な勉強

大学に関しては、自主的な勉強に取り組む時間は増加傾向であるという結果になりましたが、短大に関しては、幼児教育・保育科が著しく低い結果となりました。大学では、免許や資格取得に向けて主体的に取り組める学修環境の一層の整備が必要であることが分かりました。一方、短大は学生の学習意欲を喚起させる学修環境の整備が強く求められることが分かりました。

以上